

第六節 ゆり事情

一 昭和十二年（一九三七）

- (一) 輸出百合根組合中央会設立、ゆり輸出量最高四千万球をこえる。
- (二) 支那事変勃発、蘆溝橋事件
- (三) 取り引き価格
小五寸—二銭 五寸—三銭 六寸—五銭 七寸—七銭
八寸—九銭 九寸—十一銭 尺以上—十三銭

二 昭和十三年（一九三八）

- (一) 国家総動員法施行。
- (二) 勤労働員始まる。
- (三) 取り引き価格
小五寸—一銭 五寸—二銭 六寸—四銭 七寸—六銭
八寸—八銭 九寸—十銭 尺以上—十二銭

三 昭和十四年（一九三九）

- (一) 青軸テツポウユリの栽培禁止がとかれた。
- (二) 九月、英国駐在重光大使からの通信によると、「外貨獲得に貢献しているが今次欧州大戦により英国がゆり根の輸入を禁止した。したがって輸出量の三〇パーセント約百万球の英国市場を失う。その結果産地に及ぼす影響が大きいで至急適当な措置をとられたし。」この報によって恐慌をきたしたが、植村青軸は輸出先が米国のみに限定していたのでなんらの影響もなかった。
- (三) 昭和十四年度鹿児島県永良部ゆりならびに沖縄県早生黒軸鉄鉦ゆりの産地販売に関する協議会が開催された。

1 とき 五月十八日

2 ところ 東京

3 出席者 農林省清水重弘・鹿児島県課長鶴田義隆・児玉義人・山崎吾一・永正義磨・古市美弘技師・沖縄県農林技師安保愛染・日本輸出百合根組合代表植木会社古川嘉英・浅見隆一・鈴木利吉・打木辰雄・新井商店岡崎安永・永良部百合同業組合長皆

川恵三・副組合長安田森信・沖縄県読谷村喜名百合栽培組合長重久行治・同村長比嘉幸太郎・北谷村野国千東百合組合長福地時新。

(四) 協議事項

1 昭和十四年黒軸鉄砲百合の栽培反別ならびに移出予想数量

県別	栽培面積	輸出予想数量
沖縄	三二町三八七	二〇〇万
鹿児島	一五七町〇〇七	四五〇万〜五〇〇万
計	一八八町三八七	六五〇万〜七〇〇万

主産地は、沖縄県読谷・北谷村・鹿児島県沖永良部

2 代金予約に関する件

百合代金は必ず百合組合に予納すること。永良部は特に百合組合定款に依り予納せざれば取引きならず、将来肥料代其の他の契約金は百合組合を通して行ない個人的にせざること。本年度までは従来のゆきがかり上商館の個人貸は百合販売精算の場合、組合にて便宜差し引き商館の希望に応ず。

3 価格に関する件

別紙協定価格は、本県並に沖縄県同一とし、商館

側は右協定価以下では取引せず。なお、生産者も協定価を厳守し、商館も生産者も同一歩調をとること。

4 別紙協定事項を厳守せしめるため各商館と生産者代表が捺印し、日本百合根輸出組合と永良部百合合同業組合、沖縄県百合生産販売組合聯合会に各一部宛保存すること。

5 商館側の希望

従来の実績にかんがみ五寸球輸出不可能なるものあるに付、本年は五寸球総体の二割程度購入する。取引状態によっては此れ以上取引する。よって、検査規格は従来の五寸七分〜六寸二分を五寸九分以上より検査せられたし。

6 価格

小五寸	二錢五厘	五寸	三錢五厘
六寸	一五錢五厘	七寸	七錢五厘
八寸	一九錢五厘	九寸	十一錢五厘
尺以上	十三錢五厘		

四 昭和十五年（一九四〇）

(一) 日本輸出百合根中央会から食糧増産協力のためと生

産を統制するため栽培面積を減反するように指示があった。

(二) 日本輸出百合根中央会から割り当て数量の通知があった。十月一日永良部百合根同業組合副会長赤地納寛より左記のとおり連絡があった。

第一統制品種	三五七〇千球	沖永良部
		徳之島
		与論
第二統制品種	八七一五千球	九州産
第三統制品種	三四六五千球	関東産ゆり
第四統制品種	一二五〇千球	鹿の子ゆり
計	一七〇〇〇千球	

第一統制品種の内訳

永良部	三〇〇五八〇〇球
沖縄	四七一四〇〇球
徳之島	四九八〇〇球
与論	四三〇〇〇球
計	三五七〇〇〇球

(三) 永良部百合生産費概況（反当たり）

人夫賃	男 三八人×一円二〇銭	四五四六〇銭
	女 四四人×七〇銭	三〇〇八〇銭
肥料配給	七袋×五円	三三五円

借地料	一反	三〇円
農業費		六円二九銭
雑費茶菓他	八二人×二〇銭	一六四四〇銭
検査料及組合費	四〇〇〇球×二厘	八円
計		一七二円〇九銭
収入反当合格数	三九五五球×五円三銭	二〇九円六一銭
差引利益		三七円五二銭

(四) 九州産生産費概況（反当たり）

人夫賃	男 二〇人×二円	四〇円
	女 二〇人×一円二〇銭	二四円
肥料	一〇袋×五円	五〇円
借地料	一反	四五円
計		一五九円

(五) 永良部百合販売状況

永良部原価	一球六錢七厘	二七〇球	一八四〇九錢
永良部経費	一球一錢	二七〇球	二四七〇錢
横浜経費	一球一錢	二七〇球	二四七〇錢
横浜着運賃	一球一錢五厘	二七〇球	四四〇五錢
検査保険料	一箱		六〇銭

三〇一 まで運賃三ドル(一ドル四・三五円) 一三三〇五銭

出荷奨励金一球 五四銭

計 四一円七三銭

組合相場 一箱平均一二・五ドル五四円三七銭五厘
一箱利 一二円一四銭五厘

(六) 昭和十五年ゆり生産状況

輸出球栽培面積 一四四町六反
検査合格球数 五七一九二〇四球
販売球数 四五四二〇三四球
過剰球数 一一七六八三〇球
販売代金 三〇四九〇三円四四銭六厘
反当合格球数 三九五五球
反当販売球数 三二四一球
反当代金 二二〇円
販売一球平均価格 六銭七厘

(七) ゆり取り引き価格(単位銭)

	五寸	六寸	七寸	八寸	九寸
九州産		六・五	一一・五	一八・五	二四・五
沖永良部産	四・二	六・二	八・二	九・二	一一・二

五 昭和十六年(一九四一)

- (一) 五月五日、和泊町政が施行された。
- (二) 五月二十日、東京丸の内会館において統制協議会開催。

1 昭和十六年度統制種別輸出総数決定に関する件。

「輸出数量一七〇〇万球に決定してあるが米国より五〇〇万球以上注文が来ている。輸出数量より増加してよいか。(日本輸出組合長鈴木組合長)」

「統制協議会にて三割減となし食糧増産に協力するとのことで輸出組合も同意しているのではないかと、今更この決議を崩すという事は重大な問題である。断じて出来ない。(農林省係官徳永健太郎技官)」

「五〇〇万球以上生産してあるのに三〇〇万球しか売れないという事は、せつかくの生産物を捨てるか潰すかという事になり、誠にもったいない事になる。今年だけは認容しては如何。」

「いったん決議して方針を決定した以上、今更これを変更するという事は無意味になる。生産を統制し輸出を統制するという事は政府の重大方針である。百合組合が卒先して実行することが国策に順応

する事である。今変更する考えはない。」

「統制数が決定するまでに永良部百合組合の生産者は売れるものとして植えてある。あとから中央会や農林省の方針を諒とすることは、本島だけに気の毒であり別に考慮してもらいたい。(輸出組合側)(以下略す)」

2 ゆり根価格

五寸―七銭 六寸―十銭 七寸―十三銭
八寸―十六銭 九寸―十九銭 尺以上―二十二銭
出荷奨励金を含む。

3 商社別希望数量

植木会社 一四七三七〇〇球
新井清太郎商店 七八八八二〇球
京浜ブロック 六二〇四二〇球
長崎ブロック 一二四八六〇球
計 三〇〇五八〇〇球

4 商社別希望する寸法別

五寸―六〇一一六〇 六寸―二二〇四三二〇
七寸―七四九四六〇 八寸―八五〇八七〇
計 三四〇五八〇〇

(三) 戦争食糧対策強化令が出され花卉園芸も食糧増産の

国策にそうように切りかえられた。

(四) 永良部ゆり年度別寸法比率一覧

年(昭)	五寸%	六寸%	七寸%	八寸%	九寸以上
八	三八	四〇	一九	四	—
九	三九	三七	一九	四	—
一〇	三三	三八	二四	六	—
一一	三七	三七	二二	四	—
一二	三三	三六	二四	七	—
一三	三八	四一	一九	三	—
一四	三五	三五	二五	五	—
一五	二九	三六	二六	八	—
八ヶ年平均	三四	三八	二二	五	—
九州産平均	—	六〇	三五	—	—

(五) 商人希望割合(%)

五寸二〇 六寸四〇 七寸二五 八寸以上二五
(六) 昭和十六年全国百合根輸出数量ならびに一球あたり価格

第一統制品種	球数	五寸	六	七	八	九	尺以上
第一統制品種	三五七〇〇〇〇	七銭	一〇	二三	一六	一九	二三
第二統制品種	八七二五四〇〇	八	二二	二二	三三	四二	五一

第三統制品種	三四五、四〇〇	九	二二〇	三二	四二	五二
第四統制品種	二、二五〇、〇〇〇	三五	五	八	二二	一三
						一五

(七) 中央会より送金額より代金一七四三三六円四〇銭
 永良部より受け取り状況

十六年七月一日取り引き開始、七月十七日取り引き終了。

(九) 代金支払約束

- 1 取引開始十二日前に代金半額は前納すること。
- 2 取引終了十二日迄残額精算すること。
- 3 残額精算期日七月二十七日迄とする。
- 4 米国資産凍結令発布、七月二十七日。

(十) 輸出百合根中央会との交渉

- 1 中央会より永良部百合組合あて電報。「アメリカの資産凍結により今後輸出の見込みたらず、従って政府の輸出補助を受ける関係上先に送金せし金を中央会に保留し置く必要あり、三〇〇八〇〇〇球分二三八二六円八〇銭をすぐ本会宛送金せられたし、返乞う。」百合中央会
- 2 永良部百合組合返電。「電見た、半金個人に支拂済

取引終了、今日栽培者より精算請求、はなはだしく困却す。割当数量は受渡し完了に付残金急ぎ送金乞う。」永良部百合組合長

3 八月十二日中央会より来信、輸出不能にこまる。

丙種補償並に乙種補償の検討。

(十一) 販売数量と価格第一統制品種(永良部産)

	契約球数	引渡数量	代金
植木株式会社	一、四七六、一五五	一、〇七六、一五五	一六、四七四円六九銭
新井商店	七六六、八〇〇	二六六、八九二	八三、九六七円三八銭
京浜ブロック	六二〇、四〇〇	六〇〇、五二一	六七、八八六円六二銭
九州ブロック	一六、〇〇〇	一六、三〇一	一七、六五二円二四銭
計	三、〇二四、三九五	四、二四八、六八九	三三二、九八〇円九三銭

(十二) 不足金

送り代金 三三一九八〇円九三銭 四二四八六九球代

送金額 一七四三三六円四〇銭他に中央会に保留の金あり

不足金 一五七六四四円五三銭

(十三) 輸出数量

高木商会 二五〇箱 } 四〇〇箱は米国に着荷
 長谷商会 一五〇箱 }

(十四) 持ち戻し

米国の資産凍結令により持ち戻し三千余箱。

(十五) 輸出組合の支払いたより代金

- 1 永良部より半額 二〇七〇六〇円
 - 2 九州ゆりの半額 六九七三三三円 (一球八銭)
- 計 九〇四二九二円

輸出用土代・箱代三〇万円、合計支払額一二〇万円。

(十六) 輸出不能による政府のゆり補償金額、輸出業者に補償すべき金額七十四万円、内ゆりに対して七十万円の補償。

(十七) 輸出組合の購入したゆり数量

- 第一統制品種 (永良部) 三五七万球
 第二統制品種 (九州) 新井商店一貨車、植木会社四貨車、約一五〇〇箱にして他は取り引きせず。
 約三五〇万球

(六) 沖永良部ゆりが他地方と事情を異にする理由

- 1 経済生活はゆりに依存し換金物産の約四割を占む。砂糖二七万円、畜産二二万円、ゆり二四・五万円也。
- 2 他に換金作物なし。

3 統制協議前の栽培につき六八二万球の内三〇〇万球しか売却できず、一球平均二銭の手取りで、生産費に達せず。

4 永良部ゆりは売渡済。他地区は売渡未済。

(十九) ゆりの栽培法

- 1 木子繁殖法 二寸の木子を畝幅一尺五寸、株間二寸とし、苗床栽培にする。
 - 2 鱗片繁殖法
 - ア 病斑なきもの。
 - イ 無傷のもの。
- 二寸平方に一片くらい挿し、二寸覆土し、ワラをかぶせる。

3 植え付け

球種	畝高	畝幅	株間	球数	箱数
三寸	三寸	一尺五寸	三寸	二万四千	一四〇一五
四寸	五寸	一尺八寸	四寸	一万五千	一六〇一九
五寸	五寸	一尺八寸	五寸	一万二千	二四〇三〇

木子の七分ぐらいのものは、一尺五寸の畝幅に二寸株間、一反歩四八〇〇球、石油箱六〜八箱

4 栽培法

まず畝を作り、その頂に約四寸幅の溝を設けて薄い人尿を施す。球を前記の距離に並べ球のかくれる程度に周囲の土をよせ、次に球列の側一寸をはなして後記の元肥を施し、これをくわにて球列と共に一〜二寸覆土をする。

ア 肥料(反当たり)

○ 元肥

- ・ 大豆粕四枚
- ・ 堆肥 二〇〇貫
- ・ 魚搾柏一〇貫
- ・ 過燐酸六〜七貫

○ 追肥

- 第一回 一〜二月中旬 やや浅く
- 第二回 二月 中旬 深く土寄せ
- 第三回 三月 中旬 やや浅く

イ 薔が一寸に伸びたとき、手を以て基部より除去する。

ウ ○ 病害虫

立枯病・葉枯病・腐敗病・蚜虫。

○ 防除法

・ 栽培前にホルマリン液、または石灰乳液で消毒。

・ 窒素を節し燐酸加里肥料を比較的増す。
・ 連作をさげ、少なくとも二〜三年休圃、または輪作する。

・ 三斗式ボルドー液を発病時に数回茎葉に散布する。

・ 蚜虫は煙草エキスを十倍に薄め、三回にて十分効果あり。

5 収穫 五寸球を一反歩に植え付けた場合

八寸球一〇〇〇球 一箱一四〇入 七箱

七寸球三〇〇〇球 〃 一八〇入 一六箱

六寸球四〇〇〇球 〃 三七〇入 一五箱

六寸以下二〇〇〇球

○ 販売球数八〇〇〇球

○ 木子 七分以上一六〇〇 七分以下三八〇〇

(三) 昭和十六年分 請負者に対する各字割り当て

和泊 九八・〇万球 市来政敏、陽兼生・重信・

伊集院義隆・秋葉泉川

和 二六・二万球 前久茂・東忠人

手々知名五六・五万球 前久茂・福山清定・沖

喜美留 八三・五万球 伊地知四郎・伊地知季忠・

ある。

(三) ゆりの取引商社

横浜植木株式会社・新井清太郎商店・田野井利一
郎・ポーマ商会・大瀧商会・田中幸太郎・高木商
会。

六 昭和十七年(一九四二)

(一) 沖永良部島においては、ゆり栽培はスパイ行為とか国賊だと言われ軍の圧力を受けた。しかし玉城大里宮元氏・和泊市来政敏氏・知名町神川盛重氏・新山松吉氏(盛山繁氏父)他、心ある人々は軍の圧力を受けながらもひそかにキビ畑・芋畑または空地にリンペンをまいて種子ゆりを守ってきた。戦後のゆり栽培の回復が早かったのは、心ある人がゆりを守っておられたからである。

(二) 米国は戦中日本からの輸出が途絶したため、自国で栽培をし品種の改良および増殖に努めた。オレゴン・フロリダ・ジョージア・ルイジアナ・アラバマ・バミューダ・ロングなどで積極的に栽培がおこなわれるようになって、品種の改良や生産が伸び、七百万球

伊地知季蔵・井手実通

国頭 一三二・〇万球 名島中治・新里忠経・末川

白鶴

西原 二八・七万球 伊地知季蔵・伊地知四郎

出花 一二・二万球 伊地知季忠

畦布 二五・三万球 永吉池治

皆川 五・二万球 伊井中厚

古里 一一・一万球 大里宮元

玉城 一三・三万球 伊井中厚

封印 根折二・七 永嶺二・〇 瀬名〇・二

後蘭〇・四 内城一・四 大城〇・二

(三) 昭和十六年十二月八日、太平洋戦争ぼっ発。

(三) 凍結令で滞貨となった二五〇〇〜二六〇〇万球のゆり根を集めて乾燥させて粉にひいた。この作業が進められたのは十六年十一月、四カ月余り後のことで、横浜市戸塚区瀬谷の川口製糸株式会社の工場を使ってリンペンをこわして十五分ぐらい熱湯につけ、水をきって乾燥機で乾燥させた後、粉にして代用コーヒーや澱粉の原料にした。

これが、永良部ゆりがコーヒーの原料になった話で

の生産があつた。

七 昭和十八年（一九四三）

島民は食糧増産いらずに精励した。

八 昭和十九年（一九四四）

制海権・制空権とも米軍の手に落ち、島は船の交通もなく孤立状態に陥った。

九 昭和二十年（一九四五）

八月十五日、太平洋戦争終結。

玉城大里宮元氏・和泊市来政敏氏・知名高山守実氏・新山松吉氏・神川盛重氏他、心ある人々がゆり栽培を始めた。